

ベネッセコーポレーション「現代人の語彙に関する調査」結果分析

アクティブ・ラーニングの経験が 思考力・表現力を支える「語彙力」にも影響

ベネッセコーポレーションでは、全国の高校生から社会人までを対象に「現代人の語彙に関する調査」を、2016年から実施している。それらの結果から、「語彙力」の養成と、アクティブ・ラーニングとの間に関連性が見えてきた。

※本調査では、回答者が対象の言葉のうち「知っている」と答えた割合をその人の「語彙力」としている。

言語力は、情報を正しく理解し、自分の考えを分かりやすく伝えるために重要であり、すべての学習の基盤となる力だ。「現代人の語彙に関する調査」（以下、語彙調査）では、その根幹となる「語彙力」と行動や意識の関連性を分析している。今回はその中から高校生の「語彙力」と授業での学習活動の関係に着目して紹介する。

思考力や表現力との 関連が見られた「語彙力」

思考力や表現力は、学校教育法で示された「学力の3要素」（*1）の1つであり、2020年度に導入される「大学入学共通テスト」を始めとした新しい大学入試においても求められる力となる。語彙調査の結果から、「語

彙力」はそうした力の支えにもなっているとさえそうである。図1は、思考力や表現力と「語彙力」の関連を分析した結果だ。「批判的思考力」「論理的思考力」「表現力」の各項目について、「語彙力」の高いグループの方が低いグループよりも「あてはまる」と回答した割合が高かった。

では、「語彙力」は、どのようにすれば高められるのだろうか。昨年度実施した第1回調査からは、読書量が多く、読む分野の幅が広い人や、学校の先生、学校の先輩・後輩、家族など、年齢差がある相手との会話の頻度が高い人の方が「語彙力」が高いことが分かった。読書などによるインプットだけでなく、多様な他者との会話などのアウトプットも多いことが、「語彙

図1 [第2回調査より] 思考力・表現力と「語彙力」の関係

項目	「語彙力」が低いグループ (%)	「語彙力」が高いグループ (%)	差
筆者の意見と事実とを区別して読むことができる	30.8	74.8	43.9
文章を読むとき、細部より先に大枠をつかむことができる	30.3	73.0	42.8
筆者の主張を裏づける理由や根拠に気がつけて読むことができる	30.8	73.3	42.5
筆者の主張に対する自分の意見を考えながら読むことができる	31.7	70.1	38.4
目的に応じて情報を整理し、正しい情報や必要な情報を、客観的に評価・判断できる	37.8	74.5	36.7
主張とその根拠とを結びつけた、論理的な説明ができる	25.6	62.0	36.4
文章を書いたら、読み直し、読み手にとってわかりやすく修正できる	28.0	64.1	36.1
目的に応じて自ら必要な情報を探し出すことができる	46.4	81.2	34.8
皆に何かを説明するとき、図表や箇条書きなどを加えて、わかりやすく伝える工夫ができる	27.1	59.1	32.0
その場の状況や相手に応じた言葉遣いや話し方ができる	47.6	76.2	28.7

注1) 「語彙力」が高いグループは「語彙力」が高い順に上位約30%を抽出、「語彙力」が低いグループは「語彙力」が低い順に下位約30%を抽出し、「次の文章について、どのくらい自分にあてはまりますか。それぞれについて、最も近いものを選んでください」に「とてもあてはまる」「まああてはまる」と答えた人の割合を比較した。

注2) 数値は、小数第2位を四捨五入して計算している。

注3) 回答者数は、「語彙力」が低いグループ347人、「語彙力」が高いグループ345人。

*1 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」のこと。

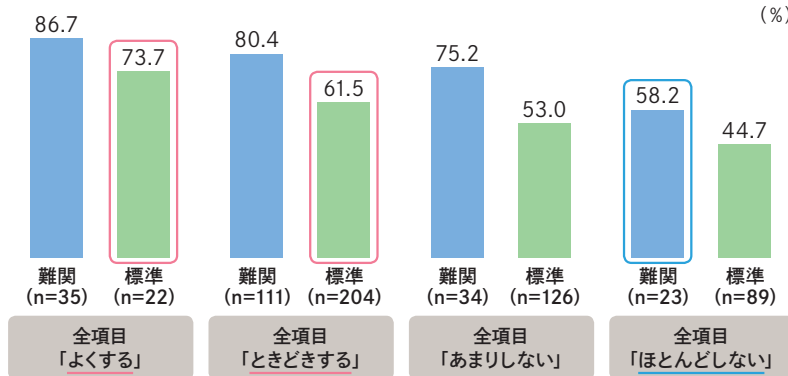
図2 [第2回調査より] アクティブ・ラーニングの経験と「語彙力」の関係 (抜粋)

項目	語彙力 (%)	差
どのように調べればよいかを考える	する (n=689) 65.6	17.3
	しない (n=351) 48.3	
調べたことを文章にまとめる	する (n=559) 66.0	13.4
	しない (n=481) 52.6	
自分の考えを図表や写真などを使って表現する	する (n=389) 68.1	13.2
	しない (n=651) 54.8	
友だちの意見を聞いて自分の意見と似ている点や違っている点を考える	する (n=595) 65.1	12.5
	しない (n=445) 52.6	
グループで活動をふりかえって何がよかったか悪かったかを考える	する (n=501) 66.0	12.0
	しない (n=539) 54.0	
学習のまとめをみんなの前で発表する	する (n=496) 65.8	11.5
	しない (n=544) 54.3	
グループで話し合った内容をまとめる	する (n=526) 65.0	10.5
	しない (n=514) 54.5	
テーマについてグループで話し合う	する (n=542) 64.3	9.5
	しない (n=498) 54.8	
学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	する (n=406) 64.6	8.0
	しない (n=634) 56.7	

注1) 質問「次のような授業での学習をどのくらい行っていますか。それぞれについて、あてはまるものを選んでください」について、各項目の回答「よくする」「ときどきする」を「する」、「あまりしない」「ほとんどしない」を「しない」として集計。

注2) 数値は、小数第2位を四捨五入して計算している。

図3 [第1回調査より] アクティブ・ラーニングの頻度と「語彙力」の関係 (%)



注1) 質問「授業の中で、次のような学習をどのくらい行っていますか。次のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください」に対する項目「自分の考えや学習の成果をみんなの前で発表する / テーマについてグループで話し合う / 調べたことを文章にまとめる」を1つにまとめ、「よくする」、「ときどきする」、「あまりしない」、「ほとんどしない」と答えた各群の語彙力を、通学校のタイプ別に比較した。

注2) 「難関」「標準」は現在通っている学校について、回答者に選択してもらった結果による。

「現代人の語彙に関する調査」概要

- ◎ 「語彙・読解力検定」(*2)を主催するベネッセコーポレーションが、全国の高校生から社会人までを対象に実施。
- ◎ 第1回：2016年7月、第2回は2017年7月(回答数はともに3,130人)。
- ◎ 「語彙・読解力検定」が辞書語彙(*3)、新聞語彙(*4)の2領域から厳選した540語の「熟知度」(*5)を調べ、現代を生きる人々の言語活動の実態、及びその年代、生活、行動などによる「語彙力」の違いを明らかにすることで、現代人に必要な言葉の力を高めるにはどうすればよいかを検討することを目的とする。
- ◎ 詳しい調査結果は下記をご覧ください。
<http://www.goi-dokkai.jp/research/index.html>
- *2 ベネッセコーポレーションと朝日新聞社の主催で、社会に必要な「ことばの力」を測る検定。2011年の開始以来、累計約33万人が受検(2017年8月時点)。
- *3 主に国語辞典に掲載されている、文章や会話を理解し、的確に表現するために必要な語彙。
- *4 新聞に掲載されることの多い、社会生活で必要な基礎知識や時事知識に関する語彙。
- *5 調査対象の各語について、「知っている」と回答した回答者の割合。

力」につながるが見えてきた。こうした結果を得て、今回注目したのが授業と「語彙力」の関連性だ。

図2は、授業でのアクティブ・ラーニング(以下、AL)と高校生の「語彙力」の関係を分析した結果だ。ALの各活動について、授業で行っていると答えた人の方が「語彙力」が高い。特に、「どのように調べればよいかを考える」「調べたことを文章にまとめ

る」「自分の考えを図表や写真などを使って表現する」では、経験の有無による「語彙力」の差が大きかった。他者の考えを聞く、資料を調べるといったインプットと、自分の考えを伝え、まとめ、発表するといったアウトプットを、ALの授業を通して日々繰り返すことが、「語彙力」を高めることにもつながるのではないだろうか。

また、学力によらず、ALが「語彙力」を高めることに結びつく可能性も見えてきた。図3は、ALの頻度と「語彙力」の関係を分析した結果だ。授業でALを「よくする」「ときどきする」と答えた「標準」の高校生の方が、ALを「ほとんどしない」と答えた「難関」

の高校生よりも、「語彙力」が高かった。ALを実施している方が、学力にかかわらず「語彙力」が高いという結果は、ALの「語彙力」育成の有効性を示すものと言えそうだ。

今後さらに育成が求められる思考力や表現力とも関連が深い「語彙力」。ALの導入によって「語彙力」を高めることは、新しい入試への対応にもつながるだろう。